

令和 4 年度 農林水産白書について

農林水産政策課

1 趣旨

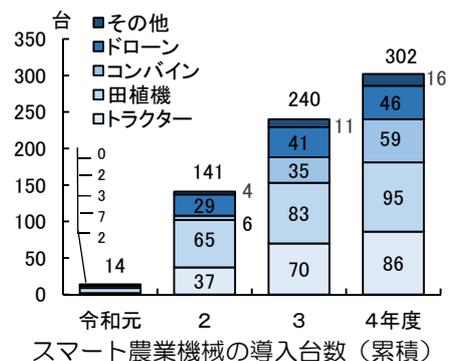
「福岡県農林水産業・農山漁村振興条例」（平成 26 年 12 月制定）に基づき、農林水産業の動向や施策の実施状況などを取りまとめたので、報告するもの。

2 農林水産業の主な動向

(1) マーケットインの視点で生産力を強化

○ 水田農業でのスマート農業機械の導入を促進

- 県では、水田農業の更なる効率化や省力化を図るため、ロボットトラクター、ロボット田植機、防除用ドローンといったスマート農業機械の導入を支援。
- 令和 4 年度は、収量センサーを備えたコンバイン 24 台、防除用ドローン 5 台など、55 経営体が合計 62 台のスマート農業機械を導入し、スマート農業機械の導入台数は累計で 302 台。



スマート農業機械の導入台数（累積）

資料：水田農業振興課調べ

○ 大豆新品種「ふくよかまる」の本格導入開始

- 県では、県産大豆の安定供給を図るため、新品種「ふくよかまる（品種名：ちくし B 5 号）」を開発。
- 「ふくよかまる」は、現行品種の「フクユタカ」と比べ、収量が 1 割程度多く、加工した際の甘みやコクといった食味が良好。令和 4 年度から本格的に導入し、789ha で栽培。
- 今後、8 年度までに県内で栽培される全ての大豆を「ふくよかまる」に切り替えるとともに、県産大豆の安定供給とロゴマークを活用したブランド強化を推進。



「ふくよかまる」ロゴマークを PR する服部知事

○ 物価・原油価格高騰に対応する緊急対策を実施

- 県では、物価高騰など農林水産業を取り巻く状況の変化に対応するため、経営継続への支援や生産力強化に資する取組を実施。
- 経営継続に向け、肥料・飼料の購入経費や燃料・電気料金の一部助成に加え、飼料の自給率向上のための生産・加工機械の導入等を支援。
- また、生産力強化に向け、県産小麦の農地の団地化や作業の効率化・省力化につながる機械の導入、県産木材の生産力強化に資する大型機械の導入等に加え、輸入小麦の代替となる県産米粉を使用した新商品の開発・販売を支援。

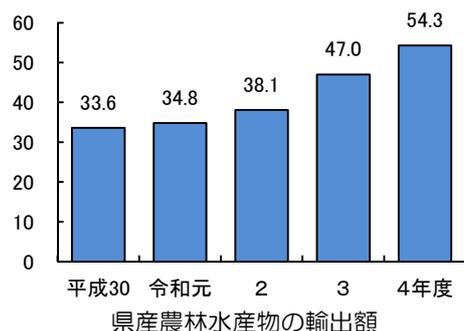


導入された自給飼料の生産・加工機械

(2) 「選ばれる福岡県」に向けてブランド力を強化し、販売を促進

○ 県産食材の取扱額が3.9億円まで拡大、農林水産物の輸出額は54.3億円で過去最高

- ・首都圏、関西圏での「福岡フェア」の開催等により、令和4年度の県産食材の取扱額は、前年度に比べ19%増の3.9億円に拡大。
- ・また、海外での販売促進フェアの開催や商談会への出展支援、輸出向けの生産体制構築の取組等により、4年度の県産農林水産物の輸出額は前年比約15%、7.3億円増加し、54.3億円と過去最高を更新。



資料：輸出促進課調べ

○ 「全国和牛能力共進会」への出品を契機に「博多和牛」をPR

- ・「和牛のオリンピック」とも呼ばれる「全国和牛能力共進会」は、5年に1度、肉質や種牛の体格の良さを競う大会。
- ・令和4年10月に鹿児島県で開催された「全国和牛能力共進会」では、「肉牛の部」において、「博多和牛」が初めて、最高賞となる優等賞に入賞。「種牛の部」においても1等賞に入賞
- ・これを契機に「博多和牛」の認知度向上を図るため、9月～11月には、県内飲食店26店舗で「博多和牛」を使用したメニューを提供し、12月には、共進会上位入賞を記念した「博多和牛フェア」を開催。



優等賞を受賞した「博多和牛」

○ 「福岡の八女茶」の魅力をPRするイベントを開催

- ・令和5年に発祥600年を迎える八女茶の魅力をPRするため、5年1月13日からの1か月間、関係機関で構成する「福岡の八女茶」茶会実行委員会が、博多駅に隣接する商業施設でイベントを開催。
- ・会場では、美味しいお茶の淹れ方やアレンジティーの作り方講座の開催に加え、煎茶や玉露を提供。
- ・今後も、八女茶のロゴマークを活用したPRにより「福岡の八女茶」のブランド力を強化。

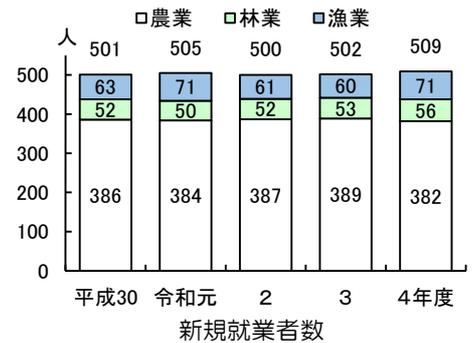


お茶の淹れ方講座と「福岡の八女茶」ロゴマーク

(3) 農林水産業の次代を担う「人財」を育成

○ 新規就業者は6年連続で500人を突破

- ・県では、新規就業者の確保に向け、令和4年度は就業セミナー・相談会を、対面とオンラインを併用したハイブリッド形式で開催。県内外から211人が参加。
- ・4年度の新規就業者は509人で、6年連続で500人を突破。



資料：後継人材育成室、林業振興課、水産振興課調べ

○ 農業大学校の機能を強化し、技術力のある人材を育成

- ・県では、農業分野におけるデジタル技術の活用を積極的に推進するため、農業大学校の機能を強化し、デジタル技術に対応できる人材の育成を推進。
- ・令和4年度は、農業DX対応型ハウス*において、環境データ分析や遠隔制御技術を活用したいちごの生育管理などを学ぶ、農業DXの実習を開始。
- ・学生からは「将来、就農したら使ってみよう」との声。

*農業DX対応型ハウス：クラウドを活用したハウス内の遠隔監視・制御といった技術を導入したハウス



タブレット端末を活用した実習

○ 啓発セミナーの開催によりノリ養殖経営体の法人化を支援

- ・有明海のノリ養殖の担い手を確保していくためには、求職者の受け皿となる法人化が有効。
- ・県では、有明海漁連と連携し、法人経営の理解を推進するセミナーの開催や専門家の派遣に取り組む。
- ・令和4年度は、セミナーに116名が参加し、参加者からは「法人経営の基礎が理解できた。今後、法人化した際のイメージを考えていきたい」との声。



ノリ養殖経営体への啓発セミナー

(4) 持続可能な農林水産業に向けワンヘルスを推進

○ 全国初！農林水産物のワンヘルス認証制度をスタート

- ・県では、農林水産業におけるワンヘルスの取組を進めており、食の安全・安心や環境への配慮など、ワンヘルスの理念に沿って生産・販売された農林水産物や加工品を認証する「福岡県ワンヘルス認証制度」を、全国で初めて創設。
- ・また、認証申請や認証農林水産物の取組内容が閲覧できる専用サイトを開設。
- ・さらに、認証農林水産物のPR販売、県広報テレビ番組やデジタルサイネージ広告により、認証制度と認証農林水産物をPR。
- ・令和5年3月末現在、22件・2,394経営体の43品目を認証。



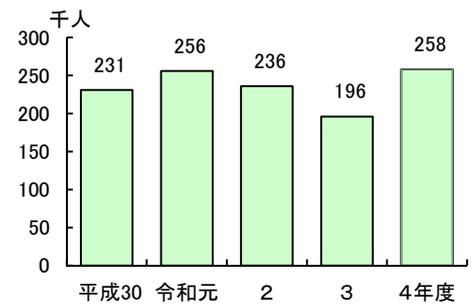
認証マーク

○ ワンヘルスを体感できる、「ワンヘルスの森 四王寺」を整備

- ・県では、ワンヘルスの理念を実感できる場として、福岡県立四王寺県民の森を「ワンヘルスの森 四王寺」として整備。
- ・令和4年度は、学習展示館を「ワンヘルスの森ミュージアム*」としてリニューアルし、令和4年11月10日から一般開放。
- ・また、5年1月からは、ワンヘルスの理念や森について解説するワンヘルスガイドと一緒に、森林浴を体験できるツアーを開始。

*ワンヘルスの森ミュージアム

森に生息する動植物の解説や樹木の標本、森林浴による健康増進効果などを学べるパネル等を展示。



「ワンヘルスの森」来場者数

資料：林業振興課調べ

○ 県内で発生した鳥インフルエンザへの対応

- ・令和4年度、県内で3市4件の高病原性鳥インフルエンザの発生を確認。市や農業協同組合等と連携し、24時間体制で農場の防疫作業を実施。
- ・加えて、まん延防止のため、設置した消毒ポイントでの畜産関係車両の消毒や、養鶏場への消石灰と消毒薬の配布を実施。
- ・引き続き、畜産農家に対する飼養衛生管理基準の遵守徹底を指導し、鳥インフルエンザ等の家畜伝染病の発生予防に取り組む。

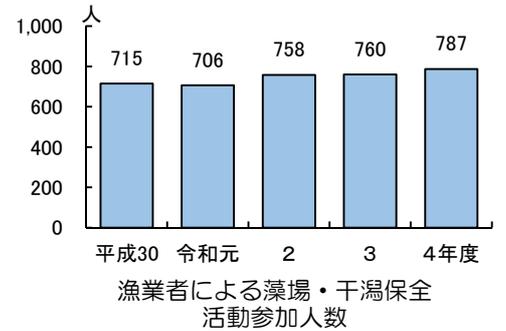


発生農場での防除作業

(5) 安心して住み続けられる農山漁村づくりを推進

○ 県民に藻場・干潟の環境保全の重要性を啓発

- ・ 県では、漁業者グループが実施する藻場や干潟の環境保全活動を支援し、23グループ、787人が参加。
- ・ 加えて、藻場や干潟が産卵場や稚魚の育成場、水質の浄化といった重要な機能を持つことを啓発するため、親子参加型の海浜清掃や漂着物を使った工作イベントを開催。
- ・ 参加者からは、「拾った貝殻やプラスチックの破片を使った工作が楽しかった」「ずっときれいな海であってほしい」といった声。



資料：漁業管理課調べ



親子参加型イベント

○ 野生動物との棲み分けを図る緩衝林の整備を推進

- ・ 県では、里山における、人と野生動物の棲み分けを図るため、野生動物が身を隠すことができない見通しの良い緩衝林（緩衝地帯）の整備を推進。
- ・ 令和4年度は、岡垣町において、イノシシの生息調査を実施。生息密度が高く被害も多い地域をモデル地区とし、町が行う1.2haの雑草木の伐採を支援。
- ・ その結果、整備された緩衝林では、イノシシの出没回数が整備前に比べ大幅に減少していることを確認。



(整備前) (整備後)
緩衝林の整備

○ 福岡県森林環境税を活用した森林整備の推進

- ・ 県では、公益的機能を持続的に発揮できる森林を育てるため、福岡県森林環境税を活用して荒廃の恐れのある森林の整備を推進。令和4年度は、1,462haを整備。
- ・ 福岡県森林環境税は、4年度に導入から15年目を迎えたことから、福岡県森林環境税条例に基づき、「福岡県森林環境税検討委員会」において事業の施行状況や社会経済情勢の推移を検証。
- ・ 委員会は県に対し、自然災害の多発化・激甚化といった状況を踏まえ、森林環境税事業の継続が適切と提言。
- ・ 県では提言を踏まえ、令和5年度以降も福岡県森林環境税を継続し、森林荒廃の未然防止の取組を推進。



強度間伐後の林内



福岡県森林環境税検討委員会

3 部門別の動き

(1) 農業

○ 米の作況指数は100の「平年並み」、麦は5年連続で豊作

- ・米の作付面積は前年比1,200ha減の33,400ha。7月中旬の日照不足で全もみ数が平年よりやや少なかったものの、登熟がやや良かったため、作況指数は100の「平年並み」。
- ・麦の作付面積は、前年比400ha増の22,700ha。生産量は平年^{*}比30%増の100,900tと、5年連続で豊作。これは、適期播種や排水対策の徹底が主な要因。ラーメン用小麦「ラー麦」の作付面積は、前年並みの1,880ha。生産量は平年に比べ28%増の8,065t。

※生産量の平年値：平成27年産～令和3年産平均（直近7か年のうち最高及び最低を除いた5か年平均）。

米・麦・大豆の作付面積

品目	3年産 (a)	4年産 (b)	(b)/(a)
米	34,600	33,400	97
元気づくし	6,430	6,170	96
実りつくし	440	390	89
麦	22,300	22,700	102
ラー麦	1,820	1,880	103
大豆	8,190	8,160	100

資料：農林水産省「作物統計」、水田農業振興課調べ

○ 「秋王」の生産量が、前年から大きく増加

- ・温州みかんの栽培面積は、前年比10ha減の1,140ha。優良品種の「早味かん」や「北原早生」の栽培面積は、前年比1ha増の177ha。生産量は、12%減の2,771t。
- ・かきの県育成品種「秋王」の栽培面積は、前年並みの39ha。生産量は、前年比64%増の181t。
- ・キウイフルーツの県育成品種「甘うい」の栽培面積は、前年並みの20ha。生産量は、前年比6%減の291t。

果樹優良品種の栽培面積

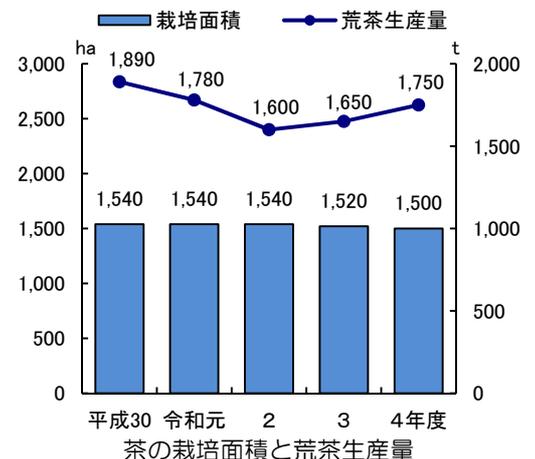
品目	3年産 (a)	4年産 (b)	(b)/(a)
温州みかん	1,150	1,140	99
早味かん	83	87	105
北原早生	93	90	97
かき	1,170	1,160	99
秋王	39	39	100
キウイフルーツ	282	276	98
甘うい	20	20	100

資料：農林水産省「作物統計」、園芸振興課調べ

○ 一番茶（煎茶・玉露）価格は全国一

- ・茶の栽培面積は前年並みの1,500ha。荒茶の生産量は、前年比6%増の1,750t。八女伝統本玉露の栽培面積は、前年比1.5ha減の12.1ha。
- ・「さえみどり」や「おくみどり」といった優良品種への改植を進めた結果、栽培面積は5ha増の199ha。
- ・一番茶の荒茶価格は煎茶で3,295円/kg、玉露で5,833円/kgといずれも全国一。
- ・全国茶品評会で、八女市が「玉露の部」で22年連続、「煎茶4kgの部」で2年連続となる産地賞^{*}を受賞。

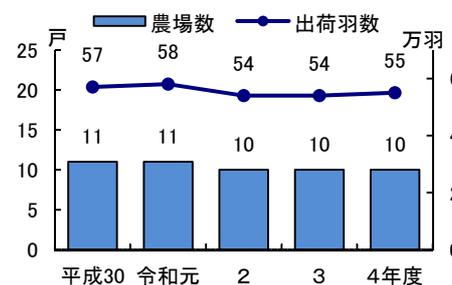
※産地賞：茶種ごとに成績優秀な市町村に対し褒賞。同一市町村から3点以上出品し、審査成績の上位3点の合計得点で決定。



資料：栽培面積は農林水産省「耕地及び作付面積統計」、荒茶生産量は農林水産省「作物統計（工芸作物）」

○ 「はかた地どり」の出荷羽数は6年連続で九州一

- ・令和4年度の「はかた地どり」の出荷羽数は、前年度並みの55万羽で、地どりでは6年連続で九州1位を達成。

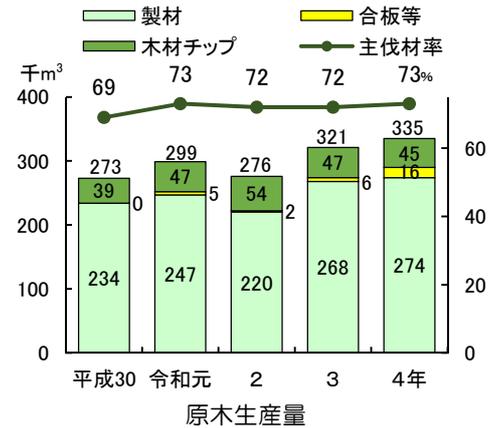


資料：福岡県はかた地どり推進協議会調べ

(2) 林業

○ 原木生産量は4%増の335千m³

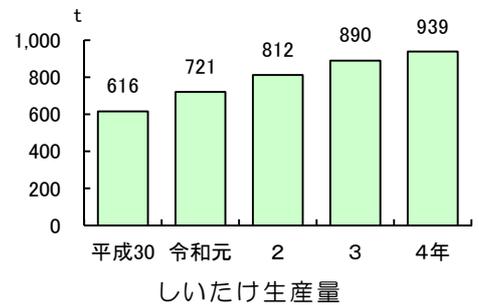
- 令和4年の原木生産量は、主伐経費の助成や高性能林業機械の導入支援による主伐の推進に加え、円安などの影響を受け国産材の需要が高まったことから、前年比4%増の335千m³。
- 原木生産に占める主伐材の割合は前年並みの73%。
- 原木の用途別では、製材用が274千m³、合板等用が16千m³、木材チップ用が45千m³。



資料：林業振興課調べ

○ しいたけの生産量は6%増の939t

- 令和4年のしいたけの生産量は、前年比6%増の939t。
- これは、国産しいたけの需要が高まったことが要因。
- たけのこの生産量は、主産地の八女地域が表年であったことに加え、3月下旬以降のたけのこ発生期に、気温と降水量に恵まれたため、前年比34%増の5,875t。



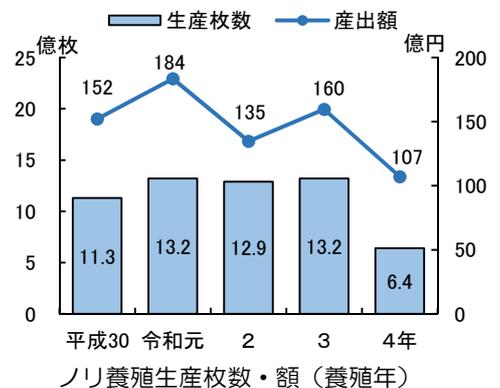
資料：林業振興課調べ

(3) 水産業

○ ノリ生産量は平年比50%減の6.4億枚

- ノリの生産枚数は平年^{*}比50%減の6.4億枚。
- これは、晴天が続き高い水温の中、植物プランクトンが増殖したことで、栄養塩が減少し、ノリの色落ちや生長の遅れが発生したことが主な要因。
- 平均単価は、平年比4.06円高の16.54円/枚で、生産額は平年比33%減の105.3億円。

※生産枚数の平年値：平成29年～令和3年の5か年平均。

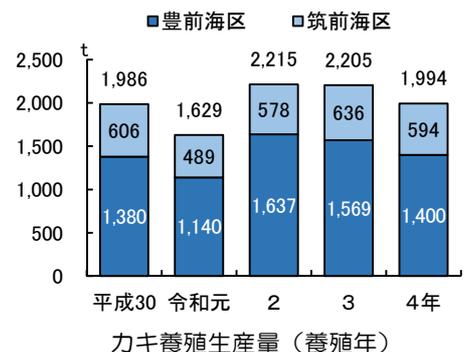


資料：水産振興課調べ

○ カキ養殖生産量は平年並みの1,994t

- カキの養殖生産量は平年^{*}並みの1,994t。
- 台風の影響があったものの、県の指導に基づく食害防止対策や養殖管理を徹底した結果、平年並みの生産を維持。

※生産量の平年値：平成29年～令和3年の5か年平均。



資料：水産振興課調べ